

～文化的歴史的所産を巡る～ 残したい情景

第36回 福岡県福岡市



一般財団法人 日本不動産研究所

商人の町として栄えてきた博多。その中心部は、1587年の「太閤町割り」と呼ばれる区画整理事業で骨格がつけられたことは、あまり知られていない。豊臣秀吉による町割りの結果、間口が狭く奥行きが深い独特の町屋区画が出来上がった。間口5尺、奥行20尺程度の細長い区画だ。

うどん発祥の地

現在、博多で町屋が残っているのは上呉服町などわずかなエリアだけだ。考えられる理由は、福岡市が先の大戦でB29の大空襲を受けて焦土と化したため、武家屋敷や町家などの伝統的な家屋や街並みが残っていないからだろう。さて、わずかに町家が残る上呉服町は、博多駅の隣駅である地下鉄「祇園」駅から徒



町屋が残る上呉服町の街並み

太閤町割りから続く商人の町

博多を彩る町屋の利活用

歩5分程度、大博通りの背後にたえずむように存在する。博多町家が点在するその範囲は予想外に小規模で、京都の町屋や金沢の茶屋街と比較するとほぼ残っていないと言ったほうが正しいかもしれない。ただこの町の一角には「承天寺」や「聖福寺」など博多を代表するそうそうたるお寺群がある。そのお寺の一つ「承天寺」は日本におけるうどん・そば・饅頭の発祥の地と言われ、博多祇園山笠の生まれ場所としても有名である。この場所は本家本元の博

多部一番地なのと並ぶ通り沿いを「流」と呼んだ。この「流」が博多祇園山笠の曳山を持つ町内の発祥となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東流・中洲流・西流が存在する。ここで生まれ育った子供たちは幼い頃から山笠に参加し地域の伝統と男の流儀を教わる。博多祇園山笠が始まって以来800年近くになる。この界限は福岡市の中でも最も色濃く伝統的で文化の漂う町

の並ぶ通り沿いを「流」と呼んだ。この「流」が博多祇園山笠の曳山を持つ町内の発祥となり、現在も千代流・恵比須流・土居流・大黒流・東流・中洲流・西流が存在する。

現在残っている町家の利用形態は、うどん店だったり、カフェバーだったり、宿泊施設だったり、商売を営んでいるケースが多い。このところ上呉服町には町家を改造して飲食店や旅館にする例が増えている。建

伝統と流儀

築確認不要な用途変更の規模が20

色濃く伝統的で文化の漂う町

の一つだ。ただ、よき者から見ると若干敷居の高い「博多っ子」の町でもある。

商業の中心は現在の天神(中央区)に移り、山笠を擁する博多っ子の町はしばらく相対的地盤沈下を強いられてきた。しかし11年以降のJ.R博多駅周辺の急激な発展とインバウンドの伝統的な街並み嗜好により、徐々にその賑わいを取り戻しつつある。

現在はブームに火がつく寸前と言ったところだが、博多町家が収益重視の賃貸マンションに建て替えられずに、博多の町を彩り歴史のにおいをかぐ風景の一つとして後世に引き継がれていくことを願う。

(九州支社/不動産鑑定士・山崎健二)



用途変更の規制緩和が木造家屋の店舗化に追い風となり、飲食店や旅館に改造する例が増えている。

